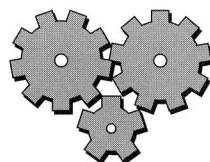


NPO法人
北九州TSニュース
Kitakyushu Techno-Support

2007

1



通巻8号／平成19年1月15日発行
発行／NPO法人 北九州テクノサポート
・発行人 秦 吉昭 ・編集人 三上 亨
北九州市戸畑区中原新町2-1・北九州テクノセンタービル1F
〒804-0003 Tel・Fax093-873-1453



新年のご挨拶

NPO法人 北九州テクノサポート
会長 秦 吉昭

新年明けましておめでとうございます。我が国の経済は「いざなぎ景気」を超える状況だと言われています。然しながら、やや陰りも囁かれており、一般的にはそれほど好況観が感じられないのが通説となっているようです。このような情勢にありながら、新しき時代へ向かって、躍進されている中小企業の皆様のご努力に、敬意を表します。

さて、当北九州テクノサポートの昨年を顧みますと、NPO法人化からやがて4年を経過し5年目を迎えようとしております。現在、正会員数65名、6部会活動とエコアクション21地域事務局福岡を中心として活動しています。

特に平成17年4月「エコアクション21地域事務局福岡」が発足し、約1年9ヶ月を経過しました。「相談・コンサル・申請・認証からフォローまで」の一貫業務を行っていますが、認証・登録31社、申請中37社とほぼ予想どおりで進行しています。また「金属プレス成形金型産学連携研究会3年目」で実践的な研究がすすみ、1社は研究の成果ソフトを導入、3社が導入することを検討されています。誠に喜ばしいことです。また、本「産学連携活動」は日刊工業新聞「モノづくり連携大賞・特別賞」を受賞し、全国で紹介されました。その他本年春開館する「北九州産業技術保存継承センター」や北九州市立大学の「環境技術調査」、「北九州エコプレミアム事業」、FAIS「TLOライセンス活動」、昨年に続き山口大学の「エコ・テクノ企業訪問コーディネート事業」、「中小企業への技術・

販売支援」等の協力、「九工大コーディネーター派遣」、「北九州TSニュースの発行」等々の活発な活動を展開してまいりました。これも偏に関係各機関のご理解と会員皆様のご協力のお陰だと感謝しております。

「石の上にも3年」も過ぎ、やっとな種をまいた土壌から芽をだしつつあるように思います。これから、今後を見据えた「産業振興に貢献する活動」を模索しなければならないと痛感しております。更に充実した活動を継続し軌道にのせるために、前年をブラッシュアップした活動を行い、基盤強化に務めたいと考えております。

新年にあたり、昨年からの継続プロジェクトを推進することはむろんですが、中小企業の皆様をはじめ市、県、関係団体、大学等との親密な連携化をはかり、各部署のシーズ・ニーズの情報を受け止め、推進したいと考えております。

また、我々の活動にご賛同いただく方々の会員を広く求めていますので、ふるってご参加ください。ご紹介或いはお尋ねくだされば幸いです。

今後とも、会員皆様のご協力と、関係各位皆様のご支援・ご協力並びにご指導、ご鞭撻の程を申上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。





新年のご挨拶

北九州市長 末吉 興 一

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、3月に、市民の悲願であった新しい北九州空港が開港しました。空港までのアクセスとなる東九州自動車道も開通し、年間利用者数は約120万人に達する勢いで推移しております。

新空港の開港と自動車道の開通により、北九州学術研究都市、響灘大水深港湾とあわせ、北九州市ルネッサンス構想のもと、本市の将来の発展の骨格となる基盤（資産）として実現に向けて力を入れてきた4大プロジェクトが完成となりました。ようやく、アジアの主要都市と同じ土俵に立てるようになったと考えています。

また、7月の家庭ごみ収集制度の見直しの際には、スタート当初から9.8%を超える高い分別協力率を得ることができました。短期間で新制度の浸透を可能にした約1万2千人の分別協力員をはじめとする市民の熱意と行動力は、大きな「資産」です。

これまで、環境国際協力、エコタウン事業など、主に産業や技術の側面から環境都市として世界的

に高い評価を得てきましたが、今回、市民が環境に対して持っている意識や力も誇れるものであることを示すことができました。「世界の環境首都」という新たな「資産」づくりに向け、着実な歩みを進めています。

成熟社会を迎え、これからのまちづくりにとって、これまでに培ってきた都市の「資産」を最大限に生かしていくことが、何より重要になります。

現在、北九州市のさまざまな「資産」を生かす新たな取り組みとして、ビジターズ・インダストリーの振興を進めています。今年から、「市民みんなが主役」のにぎわいづくり運動が本格的に展開されます。

ますます厳しくなる状況の中、都市の「資産」を活用し、知恵を絞り、市民の力を結集することで、北九州市の飛躍に向け加速する年になると信じています。

NPO法人北九州テクノサポート

会 長	秦 吉 昭	理 事	後 藤 禎 二
副 会 長	小 川 勝	"	鳥 越 年 高
"	石 川 浩	"	重 藤 将 美
"	小 野 晃 一	"	尾 形 昌 彦
理 事	米 沢 昌	"	小 林 敏 郎
"	三 上 亨	"	竜 口 康 文
"	安 東 静	監 事	増 田 幸 一
"	島 谷 哲 雄		

〒804-0003 北九州市戸畑区中原新町2番1号 ㈱北九州テクノセンター内
TEL・FAX (093)873-1453 <http://www.npo-kts.org/> E-mail: npo-kts@npo-kts.org

新春
随想

地域経済の発展に貢献努力

(社)九州機械工業振興会

専務理事 小川 徹

昨年春、公益法人制度改革3法案が成立し、6月2日付けで公布された。法律の施行日は、公布の日から2年6月を超えない範囲内で政令で定める日とされており、多少早まることも想定されるが、今のところ再来年の平成20年12月2日の線が有力視されています。

私ども九州機械工業振興会も、このため、新法施行後5年以内には行政庁（内閣総理大臣又は都道府県知事）による公益認定を受けて「公益社団法人」に移行するか、それとも行政庁の認可を受けて「一般社団法人」に留まるかの選択を迫られることとなります。現時点ではまだ政・省令等法律の細部が決っておりませんので、直ちにその判断を下す時期にはありませんが、早晩、その進路を明確にしなければなりません。

当振興会は、昭和36年に当時の通産大臣の認可を受けて設立した社団法人です。今年で創立45年を迎えますが、この間、当初の事業目的や範囲も拡大し、現在では、「設備利用事業」、「材料試験事業」及び「教育訓練事業」の3事業をテクノパーク内で行っています。地元北九州市域を中心に、中小の機械金属工業の技術力の向上や中堅技術者等の養成講座の開設、安全教育等を実施している他、材料試験を通じた鉄鋼、建築関係の品質管理、品質保証を行い、地域や時代の要請に応えるべく事業の展開を行っているところです。今後とも行政機関や学界、産業界の皆さん方のご指導、ご協力をいただきながら、ひきつづき地域経済の発展にいささかでも貢献できるよう、全力を傾注してまいります。

新春
随想

“覇気”をもって新分野開拓

(株)戸畑ターレット工作所

代表取締役社長 松本敏生

新年 明けましておめでとうございます。

昨年は、北部九州自動車生産100万台構想が、短期間のうちに150万台構想へと進展した年でした。信じられない「スピード」と「グローバル化」という言葉でも表現できないほど、北部九州は自動車生産の一大拠点となった年であります。そのような経済環境下で、弊社は昨年、自動車部品専用工場を竣工致しました。TOTO様を柱とする住宅設備部品事業、安川電機様等を柱とする電力部品事業、そして自動車部品事業が新たに加わった1年でした。

当社が取り組む自動車部品は、優れたアルミダイカスト鑄造技術をお持ちのメーカー様との連携により実現致しました。また、ユーザーである自動車メーカー様からのご指導と、県・市をはじめ

とする行政の方々のご支援により、事業の本格化が急速に進みました。ただ、今日に至るまでの過程を客観的に見れば見るほど、一般的には数少ない事例であると考えております。

今年は、二兎を追わず、先代が残した社是の“覇気”を持って、ひたすら成功を信じて前進するのみです。また、今年の干支は“亥”ですが、これも猪突猛進という言葉がすぐ頭に浮かびます。一方、十二支で言えば最後の干支となり、次年度は最初の干支である“子”に戻ります。平成19年の“9”も次年度は“0”に戻ることから、今年は新たなスタートを切る次年度へ向けての地固めの年と考え、ただただ突き進むのではなく、よく学び色んな事を謙虚に受け止め、誠実さを持って事業に取り組みたいと考えております。

新春 座談会

中小企業支援を推進 ～この1年と今後の方針～



正面窪田部長、右側西野専務、山口支店長、左側秦会長、手前司会三上

◇出席者 (順不同)

窪田 秀 樹
北九州市産業学術振興局地域産業部長

西野 英 明
財北九州産業学術推進機構専務理事

山口 暢一郎
商工中金北九州支店長

秦 吉 昭
NPO法人・北九州テクノサポート会長

三上 亨 (司会)
" 理事・広報部会長

三上 (司会) 本日のテーマは、「中小企業支援を推進」、これに係わる関係機関にお集まり頂いた。まずこのテーマに即して、この1年を振り返って頂きたい。

この1年を顧みて

モノづくり振興を推進

窪田 市では、1昨年2月に、「北九州市モノづくり産業振興プラン」を策定した。この行動計画に基づき、18年度の基本方針として、「自立型地域経済の創出」を掲げ、取り組んできた。



窪田部長

その内容は多面にわたっているが、そのうち中小企業に対しては、経営・技術革新に取り組む企業を支援しようという考えだ。具体的には、①事業の拡大(新連携を含み) ②自動車をはじめ新分野への進出 ③国際ビジネスの展開を中心に進めている。

国内景気は全般に好調、特に北九州の製造業はここ2年間、日銀短観でほとんど全国トップという元気を示している。この勢いをビジネスチャンスとしてチャレンジする企業を支援してきた。

もちろん、個々には格差があり、原油や材料の値上り等の懸念材料もある。それらの状況に応じた対策にも配意してきた。

開発支援 着実に進展

西野 私どもの財北九州産業学術推進機構 (FAIS) は、市の計画に基づき、地域産業の振興を図る実施部門で、地域中堅・中小企業に対する技術開発支援を行っている。



西野専務

その中核となる学術研究都市(学研都市)は6年目に入ったが、産学官の連携による地域産業界のコーディネーター役として、高度な技術開発支援を図っている。

全体としてこの1年、話題性

のある事項を挙げると、

- ① 高機能の加工技術プロジェクト(ケアメモス)の申請が国に採択され、18～20年度・7億円助成を受け、産学連携事業としてスタート
- ② 清華大学(中国でトップ)が研究室を設置、早稲田大学との共同研究がスタート
- ③ 韓国・建国大学とインキューベーション施設の相互連携と当該企業の相互進出について協定という大きな成果があった。

このほかの中小企業支援事業として、新事業・新技術開発プロジェクトへの国・市助成支援や競争力強化・安定化等の経営支援策の推進を図っている。その中で最近では、創業支援が増加しているなど、各種事業とも着実に進展をみている。

政策金融支援を拡充強化

山口 中金全般でみると、平成16年度から「政策評価」という制度が生まれた。

その18年度の重点項目は、①地域再生活活性化への取り組み ②セーフティネットの機能発揮 ③金融フロンティアの開拓の3つ、これを明確に捉えて、中小企業への金融支援を行っている。

①について、当県内3支店は、県の「子育て応援宣言」「リサイクル」「モノづくり支援振興会議」等施策の対象企業へ支援している。

市の関係では、災害や原油・原材料高の被害企業と、モノづくり企業への支援に努めている。

②については、政策金融機関とし力を入れているが、特に本年度は、梅雨の長雨や原油高騰の影響を受けた所に積極相談に乗った。

③では、「動産担保融資」「金融再生手法」といった新制度を開発して、その必要がある企業の支援に努めた。



山口支店長

金型研究とEA21が目玉

秦 私ども北九州テクノサポート（KTS）は、NPO法人化して4年、“お互いの経験を生かした産業振興への貢献”を基本理念として取り組んでいる。この1年の大きな動きは、まず「金属プレス成形金型産学連携研究会」の活動である。



秦 会長

これは、IT技術を使った金型製作のシュミレーション解析ソフトの開発と応用だ。

その研究成果として、参加企業8社のうち4社が、導入またはその検討中である。

この研究に対し、日刊工業新聞社主催の「第1回モノづくり連携大賞」のうち特別賞を受賞した。

第2は、KTS内に設置されたEA21地域事務局の活動である。いわば、ISO14000の中小企業版ともいえるEA21の相談～申請～認証取得まで支援、目下2年目だが取得済みから申請中まで約70社に達している。この制度のPRに、当会は市とタイアップしてセミナーを開催、その普及に努めた。この2つが、この1年の目玉だ。

新年の展望と抱負

三上 景気持続の中で、求人情報が厳しくなってきた。下表のとおり、ここ3～4年前に比べて急激な様変わりである。

◇有効求人倍率の推移

年度・月	14年度	15年度	16年度	17年度	18/10
小倉	0.54	0.68	0.86	1.10	1.20
北九州	0.42	0.52	0.66	0.82	0.91
福岡県	<0.43>	<0.53>	<0.68>	<0.79>	<0.86>
全国	<0.55>	<0.69>	<0.86>	<0.98>	<1.06>

この傾向は、企業・業種・職種によって“まだら模様”だが、少子・高齢化のメガ・トレンドの中でさらに進展が予測される。

この状況も踏まえたうえで、各機関の今年の展望と抱負を承りたい。

成長支援に重点シフト

窪田 全般景気の好転の中で、一頃経営支援の主流だったセーフティネット関係の予算の使い残り傾向がみられる。

新年度は、これを成長支援面にできる限り振り向けていきたい。この中味は、技術支援と経営革新に二分されるが、状況を見ながら、両方のバランスを取っていきたい。どちらかと言えば、国際ビジネスを含めて後者の方が弱い感じがあるので、販路開拓面の支援を強めたい。

自動車関連では、既参入企業の取引拡大は概ね順調だが、新規参入の方はハードルが高そうだ。

生産管理その他課題については、設備投資や人材育成に助成制度を設けたり、セミナー、視察、商談会等行ってきたが、新年度はFAISと一体になって強化し、目標の地元調達率向上に努めていきたい。

研究開発成果の利用促進へ

西野 FAISでは、地域指定された「知的クラスター創成事業」が、新年度は2期目に入る。産学間の提携・交流により地域の研究開発をさらに促進、その成果を地元中小企業の利用へと新しい使命に向けて前進を図りたい。

学研都市は正に人材育成の場であり、自動車関係の専門技術者の育成や相対的に弱いと指摘のあった販路開拓面の強化について研修・視察・商

談会等、実践機関として取り組み前進を図りたい。

民営化でも基本姿勢不変

山口 商工中金は昨年で創立70周年、当支店も八幡で開所以来、今年で35周年を迎える。

開設以来、一貫して中小企業専門金融機関として中小企業支援に当たってきた。

目下、国の施策に基づき「民営化」への移行過程にあるが、“中小企業の育成支援”という基本的スタンスは不変である。

長年にわたって蓄積されたノウ・ハウと、全店舗を結ぶネットワーク展開を駆使、本年も全力で取り組んでいきたい。

なお、自動車関係では、引き合いはかなり来ているようだが、生産の質・量、価格、納期等にハイ・レベルが要求されるだけに踏みきれない所が多い。まだ数少ない新規参入企業から、車の生産システムの導入で既存部門にも改革効果があった、そのメリットが大だと聞いている。

ニーズに即して事業推進

秦 人材育成の一環として進めてきた前述の金型研究会も、本年度で助成期間を終える。目下、次のステップを検討中である。

数ある相談の中で、“技能者を指導する人材はいないか”という声が大きくなっている。その伝承の観点から、我々OBで何とかカバーできないかとこれも検討中だ。それと、大学と企業の仲介役として、企業サイドの“モノづくり体験を事前にして欲しい”という要望に応じて、「インターシップ」の導入を図るため、大学との連携をより密接にしていきたいと考えている。

もう一つ目玉のE A21については、その広域拡大を図りたい。もちろん北九州市域がメインに変わりは無いが、近隣（直轄、京築等）へもPR普及活動を拡げていきたい。

業界・K T Sへの要望

三上 法人化後4年、本会もしだいに基盤が固まり、かなり知名度もアップしてきたが、いよいよ本格的活動が望まれる新年になってきた。

低迷から成長発展へ。景気上昇をバックに、中小企業のニーズも前向きに転じ、多様化している。

結びは、この業界及び本会への期待・要望を頂



司会・三上

きたい。辛口の苦情もあれば、これも率直にお願いしたい。

K T Sも、前身のT・S会発足から通算すれば10年を超えた。良いアイデア・提言に他の事例紹介があれば、それもぜひお願いします。

連携と支援・発展の年へ

窪田 フォローの景気の時こそ、目先でなく会社の未来を考え、積極投資を図って欲しい。

その中身は、設備投資、人材投資、そして新開発の次の一手だ。

行政としては、その積極姿勢のある所に、できる限り対応し、支援していきたい。

K T Sには、従来事業に加えて本年は、団塊世代の定年退職で迫られる技術・技能の継承、企業の人材育成にぜひ積極的に取り組んで頂きたい。

西野 中小企業の環境やニーズは多様であり、一括しては論ぜられない。小規模でも技術開発に熱心で、頭の下がる所もある。そういった積極的な所には、できる限り支援していきたい。

それに、事業拡大や新開発しても先が見えないと途惑っている所もある。そんな所には、まず情報を提供し、一緒に方策を検討したい。

K T Sには、従来から専門家派遣やT L O等大変な支援協力を頂いているが、新年度はF A I Sとの連携を深めつつ活動して頂きたい。

それと、神奈川や大阪等で、同様な趣旨・目的で活発な活動をしている所がある。視察や相互交流で連携を図られたらどうか。

山口 各地転勤の経験からして、北九州地域はその技術力の蓄積は他が一朝一夕にはマネできないものを持っている。この折角の財産をベースに、今この良い時期をビジネスチャンスとして、成長発展にチャレンジして欲しい。

K T Sの存在は、今日初めて知った。これを期に、当方とぜひ情報交換等の交流を願いたい。

<この後、秦会長より謝辞があつて閉会>

●おことわり

この座談会は、紙数の制約からご発言の一部を圧縮又は割愛させて頂きました。しかし、大意はお伝えしたつもりです。文責は編集子にあります。ご了承方お願いします。

K T S の動き

部会活動を核に事業展開 年末理事会で総括審議

KTSでは、昨年12月5日（火）、宮若市・「グリーンヒル若宮」で、早朝9時より定例理事会を開催、部会活動報告及び中間収支報告の後、新年に入ってから活動方針等について審議しました。当KTSでは、発足以来毎月1回（原則として第1週火曜日）を定例理事会とし、事業運営の推進に当たってきています。

そのうち年末は、T・S会以来の慣例として一泊（費用は各人負担）、懇親交流を深めてきました。今回は、今までと順序を変えて前日の4日夕刻に現地集合、18時30分から年末懇親会を開催して歓を尽くしました。当開催場所は、国民年金健康センターの公共施設にあり、会議、宴会設備に天然温泉（大浴場・露天風呂）も完備、しかも割安な料金とあって、平常の疲れ落としの入湯で元気回



H18. 12. 5 年末理事会（グリーンヒル若宮にて）

復、宴も盛り上がりました。

翌5日、早朝9時からの会議の後は、同市内の「トヨタ自動車九州工場」見学に出発。

広大な敷地に偉容を増した第1、第2工場を場内バスで移動。一段と充実した最先端設備のラインに乗って素材・部品から完成車に至る見事な工程に一同感銘を深くしました。併せて、“部品の現地調達率5割から7割へ”への施策テーマの一端を担うKTSの役割を再認識させられた見学となりました。

★部会活動概況

技術・経営支援部会（小野晃一部会長）

1. 「北九州産業技術保存継承センター」開設準備作業へ協力（18. 6月～）

(1) 北九州イノベーションクロニクル作成協力（技術史年表）

- ・ 北九州産業技術史年表項目作成（世界、日本、北九州の主な技術関連年表のうち北九州地域の技術項目作成協力）
- ・ 情報ライブラリー端末閲覧用データ作成（本文及び音声ガイド原稿作成協力——約100項目）

(2) 北九州の企業紹介データベース作成協力（6月～）

追加調査企業 40社、会員13名、会員外協力者6名で実施。

2. 山口大学「エコ・テクノ2006」出展へ協力（10～11月）

- ・ 期間 11月20日（月）～23日（木）
- ・ 場所 西日本総合展示場
- ・ 北九州地区の企業に対する事前PR活動及び技術調査、53社を会員10名で実施。



北九州産業技術保存継承センター

3. 九州工業大学へ協力員派遣（4月～）

- ・ コーディネーター6名を派遣。

産学連携支援部会（石川浩部会長）

1. 「金属プレス成形金型産学連携研究会」活動

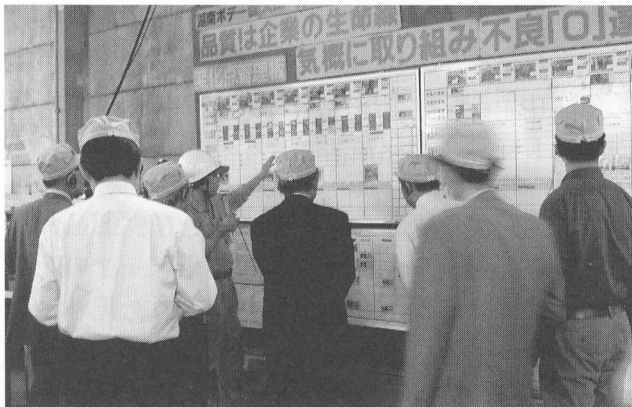
本年度は3年目を迎え、11月までに研究会を5回開催。更にセミナー並びに先進企業の工場見学会等を実施。その代表的な2件を紹介。

(1) 関西地区先進金型企業工場視察研修

- ・ 実施日 10月4, 5日
- ・ 訪問先 葵機械工業(株)水口工場・湘南工場（滋賀県甲賀市）(株)ウチダ本社工場（大阪府大東市）
- ・ 参加者 16名（(株)福機連からの参加3社4名を含む。）

- 両社は、自動車部品生産並びに金型設計製作企業。品質・納期・コスト面でユーザーからの信頼を受け安定生産を続けている優良会社であり、その現場改善活動が大変参考になった。
- ダイハツ系でスタートしたが、現在はトヨタ系・日産系の1次部品メーカーへも納入しており、北部九州へ進出している。

葵機械工業(株)中津工場、(株)ウチダ九州工場
(宮若市)



H18. 10. 4 葵機械工業(株)工場見学



11. 24「深絞り部品」実証実験 (松野プレス工業(株)にて)

- (2) 本年度現場実証実験として「深絞り部品」をテーマに実施 (11月24日)
 - ・実験実施工場 松野プレス工業(株)本社工場 (直方市中泉)
 - ・参加者 総数23名 (研究会と人材育成事業「絞り金型設計講座」合同で実施。)
- テーマは、ツイン型のカップ状ブラケットであり、1段成形では“割れ”が発生するので、2段成形でいかにスムーズに効率よく実現するか、金型設計の考え方を皆で学び討議

しながら実施、比較検討を行った。

なお、本年から始まった「第1回モノづくり連携大賞」(日刊工業新聞社主催)に当研究会活動も応募、特別賞を受賞。(詳細は綴じ込み参照)

ECO支援部会 (島谷哲雄部会長)

1. 環境行政施策への協力活動

- (1) 北九州市地球温暖化対策地域推進計画策定に参画。
 - ・同計画策定委員会に、NPO部門代表の審議委員として計画策定に参加(17. 8月~18. 7月の間、4回出席)
 - ・今後は、市の同計画に掲げた施策に従い、地球温暖化対策を推進することになる。

(2) 北九州地域企業の環境関連技術調査活動

- ・活動期間 10. 23~12. 27日)
- ・市の委託により、会員9名が約50社を訪問し、各社が保有する差別化技術内容をヒヤリングし、データベース化した。

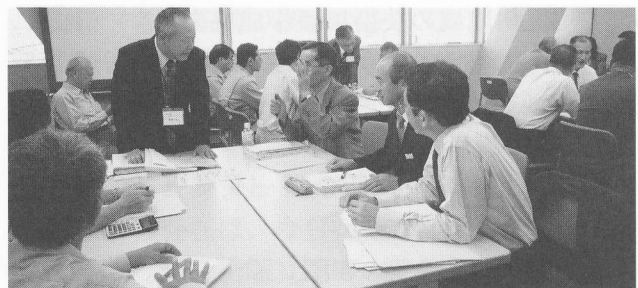
2. 専門技術等を活用した活動

市の「平成18年度簡易省エネルギー診断業務」に応札したが、逸注した。(18. 8月)

ISO・EA21支援部会 (小川勝部会長)

1. 企業支援及び普及活動

- (1) ISO14000「構築支援及び内部環境監査員研修」(各1社)
- (2) エコアクション21普及セミナー講師派遣(4回)
- (3) 北九州市の委託によるEA21実践講座(後期)を実施。



EA21実践講座会場風景

2. 関係機関・団体に対する渉外活動

- (1) 北九州市、佐賀市、飯塚市、下関市の環境部門と自治体イニシャチブプログラムに関する打ち合わせ。
- (2) 北九州市環境局にEA21実践講座の見積書

を提出。

- (3) E A21中央事務局に、第2回E A21全国交流大会の誘致に関する聞き取り調査。

3. E A21地域事務局福岡

- (1) 18年1～7月まで、判定委員会を毎月1回開催。新規審査合格数 16社。中間審査20社。
- (2) 佐賀市、下関市と自治体イニシャチブプログラムによる普及セミナー実施。
- (3) 飯塚市と自治体イニシャチブプログラム参加について打ち合わせ中。
- (4) 「エコアクション21産業廃棄物処理事業者向けマニュアル」に関する講習会に参加（東京・5. 13）
- (5) 地域判定委員会の北森委員が、5. 30付けで一身上の都合のため辞任、後任は箱田輝巳氏。

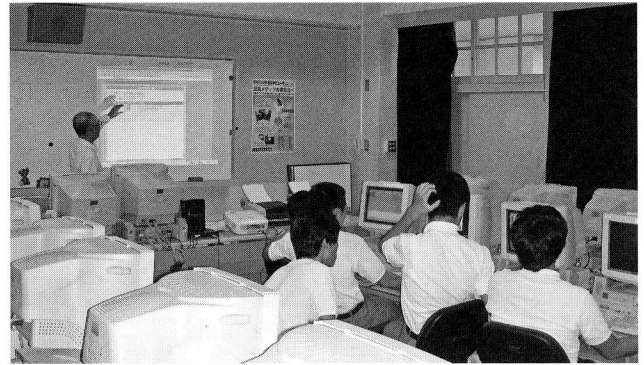
IT支援部会（安東静部会長）

1. まちづくり支援活動

- (1) 創年大学2006の運営支援及びIT支援。
- (2) 南小倉地域子ども教室PC教育支援。

2. その他の活動

- (1) インターネットによる広報活動。
KTSのHP企画・制作・管理等を実施。
- (2) IT支援事業を随時実施。
- (3) KTSのIT設備の整備管理等を実施。



子ども教室PC教育風景

広報部会（三上亨部会長）

1. 会報「北九州T S ニュース」発行

夏期号（8月）新年号（1月）を発行（12頁、1200部）関係機関・団体、会員及び域内中小企業等に配布。

- (1) 「事業所めぐり」(株)ウチダ九州工場(宮若市)取材（12. 11）
- (2) 「新春座談会」“中小企業支援活動の推進”をテーマに、12. 14開催。
（いずれも、その要旨を新年号に掲載）

2. その他の活動

随時、関係機関・団体の広報紙等に本会の動き・会長挨拶等を掲載、PR広報に努力。



エコアクション21（中小企業向け環境経営システム）

～認証・登録、構築の支援～

1. 全国で“認証”が急増

世界の動向は、企業の評価に環境経営を考慮する傾向が強まり、中小企業といえども環境経営が必須となりつつあります。

環境経営システムは国際的に認知度が高いISO14001によるものがありますが、企業にとって構築段階に留まらず維持管理にも人・物・金の費用負担が大きく、中小企業にはとても手が出ない状況でした。このような状況から、環境省はISO14001の良いところを抜き出し小規模な組織でも取り組みやすい環境経営システムを策定しました。

（別刷の“エコアクション21とは”を参照下さい）

この環境省が策定した中小企業向けの環境経営システムは、2004年に第三者認証制度とするなど大改定を行うことで信頼性が評価され、パイロット事業を経て実質上2005年初頭から普及が始まり、以後急速に認証登録が進んでいます。

2. 自治体・行政による支援

(1) 導入セミナー（普及セミナー）

北九州市では、市独自或いはエコアクション21中央事務局や環境省との共催で、無料でエコアクション21導入セミナーを2004年度より始めて、2005年度、2006年度は年間4回開催しています。

このセミナーは、市内事業者以外でも参加する

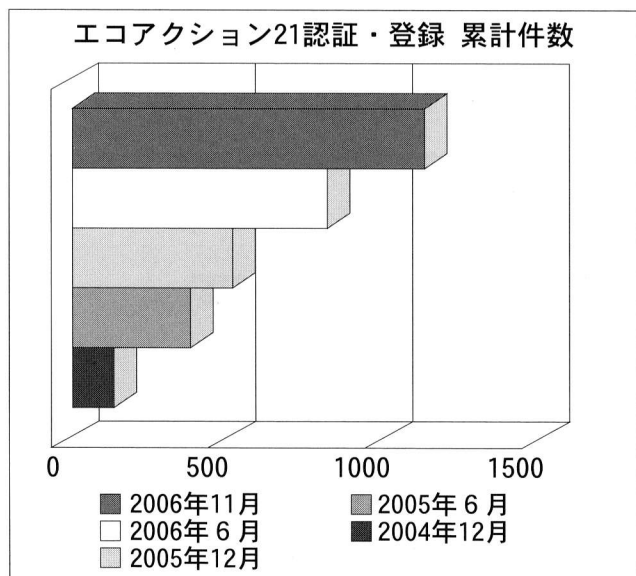


EA21普及セミナー研修風景

ことが出来ます。佐賀市など他の自治体でも実施されていますが、それ以外の自治体でも計画が相次いでいます。また、北九州市以外の場所でも環境省のセミナーが開催されます。(いずれも無料です。事務局に問合せを)。

(2)北九州市による実践講座

北九州市では、2005年度、2006年度に年間2回に亘って実際に認証・登録を目指す事業者の構築を無料で支援する実践講座を開講しています。重要な部分について3時間4回のコースです。今後については、市の環境政策室、またはエコアクション21地域事務局福岡へ問合せ下さい。



(3)自治体イニシャチブプログラムによる構築支援

自治体がエコアクション21認証・登録制度を域内の事業者の二酸化炭素排出削減対策などの取組みを支援するための有力な政策手段として積極的に活用するためにエコアクション21の普及を図る、そのための自治体と事業者への支援制度の名称が“自治体イニシャチブプログラム”です。

これは、自治体がエコアクション21の認証・登

録を目指す事業者を募集し、エコアクション21地域事務局が構築の専門家・コンサルタント（エコアクション21審査人）を派遣して構築の支援を行うものです。エコアクション21中央事務局が専門家費用を負担します。自治体とエコアクション21地域事務局が協力して事業を実施します。事業者は無料で大事な部分のコンサルが受けられます。北九州市と佐賀市は2年続けて実施しています。

(4)エコアクション21地域事務局福岡と自治体イニシャチブプログラム

エコアクション21地域事務局福岡は、昨年、今年と2年続いて北九州市、佐賀市と協力して自治体イニシャチブプログラムを実施し多くの事業者の認証・登録の支援を行いました。

2007年度は、更に多くの自治体と協働で実施しますがそのための協議を進めています。ご期待下さい。また、ご希望の自治体は是非ご相談下さい。

3. NPO法人北九州テクノサポートの支援

当法人では、7名のエコアクション21の審査人を擁し、同じ法人内のエコアクション21地域事務局福岡に協力して、導入セミナーの講師、自治体イニシャチブプログラムの専門家として支援するなど活動を広く行っています。工業団地への説明会など無料で実施していますのでご相談下さい。

☆入会のご案内

KTS会員の種別と入会条件は、次のとおりとなっています。(定款第6、7条)

(1)正会員 この法人の目的に賛同し、この法人の行う事業のいずれかについて技能、技術及び経営に関する学識・経験を提供し、活動に積極的に参加することが出来るシニア世代の個人

(2)賛助会員 この法人の目的に賛同し、活動に協力することが出来る個人及び団体。

入会金及び会費

①正会員 入会金 5,000円、年会費 5,000円

②賛助会員 (個人)
入会金 5,000円、年会費一口 5,000円

③賛助会員 (団体)
入会金 10,000円、年会費一口 10,000円
関係各位の入会方を希望し、歓迎します。

◆ 事業所めぐり

株式会社 ウチダ 九州工場

昨年12月11日、秦会長、石川副会長と広報担当の三上3人で当社九州工場を訪問、大原大平取締役・統括部長から懇切なお話を頂いた後、工場施設を見学しました。以下は、その要旨です。

◇ 会社概要

- 所在地 大阪府大東市新田本町12番6号
九州工場 福岡県宮若市宮田542-38
- 代表者 代表取締役社長 内田 末男
- 設立 昭39(1964)〈創業：昭9(1934)〉
- 資本金 3000万円
- 従業員 95名(うち九州工場24名)
- 事業 自動車用ボディ関係(トヨタ・ホンダ・ダイハツ・三菱・スズキ等)の板金用プレス金型の設計製作全般
- 主要取引先 豊田鉄工(株)、フタバ産業(株)、八千代工業(株)、葵機械工業(株)、(株)川村金属製作所、(株)平安製作所、松下電器産業(株)

○ 会社の沿革と業況

当社の設立は昭和39年4月、大阪市内での旧来の鉄工所から先端のプレス金型工場へ脱皮、大転換を期して株式会社に法人化、翌40年に設備拡張のため大東市に新築移転しスタートした。

その発端は、現社長の実兄がアメリカへ金型研究に赴き、これをベースに立ち上げた由である。

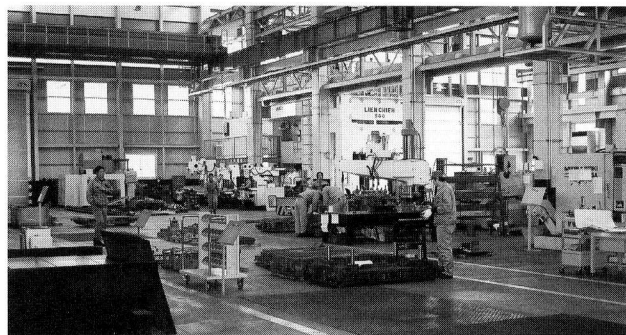
当初は、ダイハツ直系・葵会の下請取引だったが、45年頃から葵会を通じてトヨタ系列にも参入、しだいに豊田鉄工(株)その他に取引先を拡充、現在では、トヨタ・ホンダ・ダイハツ・三菱・スズキ等の自動車用ボディ関係の板金用プレス金型の設計製作全般を行う企業に成長発展をみている。

○ 当地進出の経緯と計画プラン

当社の宮若市進出は、取引先筋からの格別の誘いはなく、自主的判断で決定されている。

その契機となったのは、福岡県出先事務所の熱心な誘致活動であり、17年2月20日の話し合いから3月末には調印というハイ・スピードの進展だった。当社進出決定の主因は

- ①事業発展による本社工場の狭隘化
- ②安価な土地価格



ウチダ九州工場内作業状況

③トヨタ九州をはじめ主要取引先の近隣立地等であり、最近の好況で全般に厳しさを増している求人事情は、さほど影響していない。

現在の九州工場の従業員数は24名(うち現地採用14名だが、福岡のホテルでの面接試験には70~80名の応募があったという。)

目下、本年3月竣工予定の工場増設を見越して昨年3月新卒採用10名(大卒2、高専1、その他7)、全稼働時には60名規模に増強される。

○ 今後の課題と展望

現地のインフラ整備、地元自治体の支援等には特に大きな注文はないという。

では、当面する、また、今後の課題はとの問いかけに、大原氏は言下に「人材」と言い切った。

金型で1人前になるのには12、13年を要するという。現在の新規採用者が10年先の現場リーダーとなろうが、その上の年代層との間にギャップがあり、苦勞するのではないかとのお話があった。

次に、話題に上ったのは、仕事は引きもきらずお得意先のプレスメーカーから発注される、自動車に特化している金型屋には、受注拡大用の営業マンは不要という羨ましい話があった。

しかし、最大課題は年ごとに決まって要求される受注単価の切り下げ。我われの任務は、このお得意の要求よりも一歩早く、いかにそのコストで利益を出す技術を開発できるかにあり、その如何が命運を分けるという厳しい現実が垣間見られた。

事実、地元企業からの引き合いがあり、試しに発注してみたが、このスピードについていけず、追い付くにはまだかなりの年月を要するだろうとのことだった。

当社は、大阪の地元で地域・同業の一切の組織に加入していないという。その是非はともかく、その独立独歩の気概と厳しい試練が生んだ高い技術力に頭が下がった事業所めぐりとなった。

謹賀新年



産業廃棄物処理
プラスチックリサイクル
溶剤リサイクル

高野興産株式会社

本社 北九州市八幡西区御開2丁目5-1 TEL 093-691-2790
北九州工場 北九州市若松区響町1丁目62-19

『モノづくり技術で社会に貢献する』

吉川機械工業株式会社

営業品目 一般産業機械の設計製作及び
工作機械の修理、改造
・真空包装機械の製造
・介護ベッドの製造販売

〒804-0077
北九州市戸畑区牧山海岸4番17号
TEL (093) 883-0884 FAX (093) 883-0908
E-mail: yhkwan@yoshikawa-m-i.co.jp
Home page: http://www.yoshikawa-m-i.co.jp
Home page: http://shindaigo.co.jp 真空包装機械の紹介



より精密により高品質に！

ファインセラミックス&不定形耐火物

大光炉材は、ユーザーニーズへの迅速・
確実なレスポンスをモットーに、独自の
技術開発力を武器にダイナミックな展開
をしています。

大光炉材株式会社 〒804-0054北九州市戸畑区牧山新町1-1
新素材開発部（ファインセラミックス）
http://www.taiko-ref.com Tel:093-871-8356, Fax:093-882-7300

CAD、CAMの導入・活用、
生産管理のご相談は当社へ！



株式会社 エーエスエー・システムズ

代表取締役 麻上俊泰

〒804-0003 北九州市戸畑区中原新町3番3号
TEL (093) 882-0100
FAX (093) 882-0066

各種表面処理に関することなら「美と機能を
創造するishikawa」におまかせ下さい！

営業種目

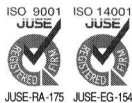
- ①各種電気めっき
- ②プラスチック成形及びめっき加工
- ③各種研磨加工
- ④その他表面処理
- ⑤住宅関連機器販売及び施工、メンテナンス



石川金属工業株式会社

代表取締役 石川 増太

本社 〒802-8512
北九州市小倉北区赤坂海岸2番1号
TEL 代表(093) 541-3331 FAX (093) 541-3260
ホームページアドレス http://www.ishikawa-k.co.jp



GL PIPE JOINTS 好評です

GASKETLESS管継手

パッキンのいらない

新製品賞
'99中小企業
優秀新技術新製品賞

福岡県知事賞
中小企業先端技術展
福岡県知事賞

The Creative Corporation
株式会社 大創

福岡県北九州市八幡東区西本町4-5-1
TEL ... (093) 681-7195
FAX ... (093) 681-7196

ご質問・お問い合わせは 専用FAX: (093) 681-7197

この町で地域医療のお手伝い。

株式会社キューリン
MEDICAL LABORATORY

〒806-0046 北九州市八幡西区森下町27番25号
TEL 093-642-3911 FAX 093-642-3967



“KOLA”

21世紀に向け最強!サイエンスの助っ人。

これからは、情報も技術も専門化の時代です。
遺伝子関連の技術は、KOLAにお任せ下さい。

KYURIN
MEDICAL LABORATORY

塗装乾燥炉の省エネ革命！

■遠赤外線発生パネルで10~20%省エネ達成

既設の乾燥炉に取付けるだけで
省エネが実現出来ます！

-北九州市エコプレミアム選定製品-

◆Eメール: yaekougyou@snow.ocn.ne.jp

株式会社 八重工業

〒803-0862 北九州小倉北区今町1丁目1-24
TEL: 093-561-7590 FAX: 093-592-1285